|  |  |
| --- | --- |
|  | No.37　　2011．6．7銀山中学校神　　貴　夫 |

亡国内閣！「原発推進路線を堅持！」

～　茶番劇の裏で進められる「原発推進復活」のシナリオ作り　～

6月5日(日)のNHKスペシャルを見た人も多かったと思う。「直ちに健康に影響はない」と発表し続けていたその裏側で、暴走しながら崩壊していく原発に何ら有効な手だてが見出せない中、絶望的な事態に陥っていく様子が関係者のインタビューと映像で明らかにされていた。2号機の格納容器内の圧力が異常上昇するなか、ベントのためのバルブ操作が不能になった時点で、福島第1原発・吉田所長は格納容器爆発を覚悟し、作業員たちに「今まで本当にありがとう。・・・・ここから去りたいものは止めない」と話した。吉田所長は、最後は原発と命を共にする覚悟だったと思われる。完全に打つ手を失った東電は職員の身の安全を確保するため「撤退」を決め、官邸に5回連絡を入れたそうだ。(その後、東電は「撤退を決めた事実はない」と釈明している。)

予想通り2号機は爆発した。しかし、爆発はサブレッションプールとの接合付近で起こり、格納容器全体が吹き飛ぶ事態は幸いにも回避された。現在、2号機はこの破損部分から高濃度の放射能を含む水蒸気が噴出し続けていて、冷却装置の工事ができない状態のままになっている。外壁が無事だった分、内部に充満し人が入れないのだ。

放射能の広範囲にわたる汚染も次々と明らかになり、首都圏でもチェルノブイリの放射線管理区域ゾーンに相当する汚染が広がっていたという衝撃的な事実も明らかになっている。しかし、TVから流れるニュースは、菅内閣退陣をめぐる茶番劇国会のことばかりだ。鳩山前首相は「ペテンだ！」と随分ご立腹のようだが、沖縄の人から見れば「詐欺師が詐欺師に向かって、詐欺だ！」と言っているように見えるだろう。この茶番劇を演じている者たちは本当にバカなのか、バカなふりをして観客の目を引き付けているのか真相は定かではない。しかし、結果とし重大な真実から私たちは目をそらされている。今日の新聞に小さめに載った記事がそれを物語っている。以下、ニュースより

　政府の国家戦略室がまとめた「革新的エネルギー・環境戦略」の素案が明らかになった。東京電力福島第一原発の事故を受けた今後の政府のエネルギー政策の方向性を表したものだが、**「重要戦略」の一つに原子力を明記。事実上、原発推進路線を堅持する姿勢を示した。**

　菅直人首相は、原発事故をきっかけにエネルギー政策を「白紙から見直す」ことを表明。見直し作業は、エネルギー政策を担当する経済産業省ではなく、国家戦略室が事務局の「新成長戦略実現会議」に移した。この会議のもと、国家戦略相を議長とする「エネルギー・環境会議」を近く発足させる。ここには、民主党からは党成長戦略・経済対策プロジェクトチーム座長の直嶋正行元経産相が加わる。

　国家戦略室がまとめた素案によると、福島第一原発事故を受け、「エネルギー・環境会議」が「踏まえるべき基本方針は何か」としたうえで、重要戦略に、省エネルギー、再生可能エネルギー、電力システム、原子力など六つを列挙した。

.

　菅首相は「浜岡原発停止」と「エネルギー計画の白紙からの見直し」を表明した。首相自らが廃炉ではなく「停止」と言命した意味について、「再稼動が可能なことを国が担保した発言ともいえる」と27号で書いた。その通りになってしまった・・・・。G8では「脱原発宣言」さえ出来ず、「安全対策強化」を謳って終わった。「白紙からの見直し」の言葉に「廃炉」を期待した人もいただろう。「内心の自由」という言葉で痛い目にあった私は初めから信用などしてはいなかった。政治というのはそうした世界なのだ。「廃炉」と書いていない以上、再稼動するつもりでいるのは初めから明らかだった。「6月で辞任する」と書いてもいないのに「辞めないのはペテンだ！」と叫んでも後の祭り。鳩山氏はやはり「ぼっちゃん育ち」というしかない。それにしても、いまだ終息の目処すら立たない状態の中、「原発推進路線を重要戦略に明記する」というこの度し難い感性は一体なんだろう。多くの被災民が内部被曝の恐怖に怯え、将来に不安を抱いている中、こうした決定を下せる感性を私は理解できない。彼らは人としてどこか壊れているのではないかとさえ思える。今回の原発事故は、はからずも国家の中枢に巣食う者たちがこれほどまでに‘業欲’に毒されていたのだという事実を白日の元に晒した。彼らが演じている茶番劇は、同じ穴のムジナ同士の責任のなすりつけ合いに過ぎず、「議員」という特権的な身分さえ守れればいいのである。

「無謬の原発安全神話」を自作自演し、その恩恵にしゃぶりついていた者たちは、本来であれば全員責任をとって辞任すべきなのだ。罪滅ぼしに私財を供出し、被災地復興作業に従事するのが誠意というものだ。それを何だ！毎日、人の税金を使って低レベルな権力闘争に明け暮れ、その陰で原発推進を復活させる画策を準備しているとは。

　IAEA査察とタイミングが一致している点も気になる。IAEAの調査報告では「津波対策の不備」がポイントだった。これは‘浜岡原発における津波対策用防潮堤完成までの一時停止措置’と同じ考え方だ。地震多発地帯に原発を建設する危険性について触れてもいない！原子力共同体総ぐるみの原発推進劇の脚本通りに事は進んでいる。脱原発の政治的受け皿になりうる政治勢力が存在していないのが致命的である。ないなら作るしかない。じゃあ誰が？？？？

原発敷地外1.7kmからプルトニウム検出！

6月5日(日)、NHKのETV8で、放射能汚染地図の続編が放映された。その中で、これまで原発敷地内でしか見つかっていなかったプルトニウムが、原発から1.7km地点で発見されたことがスクープされた。

これまで「専門家」と呼ばれる人たちがTVで解説していたことは、「プルトニウムは原子量が大きく重いため遠くまで拡散することはないので心配はいらない」というものだった。しかし、現実には諸外国の観測所が異常値を記録していることを紹介したが、今回、NHKが独自調査をし、原発敷地以外からも福島原発由来とほぼ断定できるプルトニウムを確認したのだ。以下、ニュースより

**原発敷地外からプルトニウム検出　　6月5日 19時33分**

東京電力福島第一原子力発電所からおよそ１．７キロの道路脇の土から、原発から放出されたと見られるプルトニウムがごく微量検出されました。**今回の事故でプルトニウムが原発の敷地の外で見つかったのは初めて**で、専門家は**「人体への影響はないが、汚染の実態をより詳しく調査すべきだ」**と話しています。

ごく微量のプルトニウムが検出されたのは、福島第一原発の正門から西におよそ**１．７キロの大熊町の道路脇**で採取した土です。ＮＨＫの番組取材で、北海道大学の木村真三非常勤講師らが警戒区域に設定される前の日の４月２１日に採取し、金沢大学低レベル放射能実験施設に分析を依頼していました。その結果、３種類のプルトニウムがごく微量検出され、このうち多かったプルトニウム２３９と２４０は、１キログラム当たり、合わせて０．０７８ベクレルの濃度だったということです。これは過去の核実験で国内に降ったプルトニウムと同じレベルですが、３種類のプルトニウムの割合が異なることから、**原発から放出された可能性が高い**としています。今回の事故で、プルトニウムが原発の敷地の外で見つかったのは初めてです。分析にあたった金沢大学低レベル放射能実験施設の山本政儀教授は「ごく微量なので人体への影響はないが、放射性物質が飛び散るメカニズムを考えるうえで貴重なデータになる。原発に近い場所では、汚染の実態をより詳しく調査すべきだ」と話しています。

　またしても「ごく微量なので人体への影響はない」「貴重なデーターになる」などと解説している山本教授の思考回路はどうなっているのだろう。文面から透けて見えてくるのは、めったにない研究対象の出現に興奮している姿だ。微量でも土壌から見つかったということは、エアロゾル化して空気中を舞い上がった証拠であり、多数の人々が肺に吸い込んだということだ。内部被曝の危険性に対する真摯な態度が感じられない。まして**「ごく微量なので人体への影響はない」に至っては明らかに誤りだ。**この間、何度も資料で説明してきたが、内部被曝におけるプルトニウムの毒性は極めて高く、極微量であっても影響が長期間に及ぶため体内に取り込むことはあってはならないのだ。

それにしてもおかしいのは、なぜ国として詳細な土壌調査を実施しないのかということだ。NHKからの依頼に基づく独自調査の結果で初めて深刻な事態が明らかになるという、この異常な構図こそが問題だ。これまでもそうだったように、国の動き方は明らかに事故を出来る限り過小評価し、場合によっては知らぬ顔で押し通すつもりなのだ。

3月15日、東京では異常な放射能値が研究機関のモニターで観測されていたが、「パニック防止」のためデーター公表が止められていたことが明らかになっている。大量の内部被曝者が出でしまったことはほぼ確実と見ていい。

原発事故発生から間もなく3ヶ月

被災地・首都圏等で放射能被曝の初期症状と思われる報告が多数出始めた

　間もなく福島第1原発事故から3ヶ月になる。チェルノブイリ原発事故でも見られた放射線被曝の初期症状と思われる報告が被災地だけでなく関東・首都圏地域からも多数報告されている。中でも鼻血を出す児童・生徒が急増しているという報告が多数上がっているのが気にかかる。

**○耳のない子ウサギの誕生　○東葛地区で喉の痛み、リンパの異常などを訴える子どもたちが急増　○身体がだるくなる　○元気が出ない　　　○風邪でもないのに咳が出る　　　○口の中に金属っぽい感覚がする**

**○乾燥していないのに顔の皮膚がひりつく　　　　○ふだん全く鼻血を出した事のない子どもが、鼻血を出す**

**○中学生の野球チームが三月の二十三日に半数が吐き気と下痢、鼻血を突然出して動けなくなった。食中毒でなく原因不明。その後子どもの体の切れが悪く、大幅に調子が落ち続けている(神奈川)**

北海道で「チェルノブイリの架け橋」として支援活動を行ってきた野呂代表によると、「チェルノブイリでは低線量の被曝地域の中の方が、初期症状が出易い」という実態が見られたとのことだ。化学物質過敏症の症状とも似ていることから、体内に入り込んだ異物に対する拒絶反応の可能性がある。北海道は運動会の季節を迎えた。福島や近隣都県の汚染地の校庭からは子どもたちの元気な声は消えてしまった。同じ敗戦国でありながら廃炉を決めたドイツとあまりにかけ離れた日本の哀れな姿。悪いのは誰なのか。沈黙し続けた国民、私たち一人ひとりにも責任がある・・・。